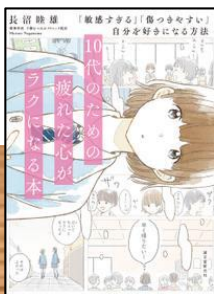


みどりの翼

特集 自分らしく

自分らしくって何だろう？
個性がなきゃいけないの？

2019年11月 Vol. 68



なのビー



発行：田原市中央図書館
(TEL：0531-23-4946)

☆新着図書・この本読んで！☆

いぬじゅんさんが浜松に住んでるって初めて知った。

「無人駅で君を待っている」

いぬじゅん／著 スターツ出版 2019年 913.6/1 イー・ブックス



雲ひとつない空が夕焼けに染まるころ、無人駅のベンチで強く願うと奇跡が起こる。夕焼け列車に乗って、たった1度だけでもう一度会いたいあの人に会える。

田原市のご近所さん、浜松市に実際にあるローカル線「天竜浜名湖鉄道」を舞台にした感動ストーリー。担当的には、3話目の寡黙な旦那さんと奥さんの話が好きです。

まじめに見るもよし。盛り上がるもよし。

「公立高等学校ガイドブック 2019」

愛知県公立高等学校長会／ほか編 愛知県教育振興会 2019年 376.8/1 イー・ブックス



自分のときは読まなかったけど、ちゃんとあるんですね。まだこれから高校受験という皆さんはぜひ…え、もう決めるからいい？ いやいや、とっくの昔に高校生ライフ終了してる私でもなかなか盛り上がりましたよ。母校に新しい学科ができて「なんじゃこりゃ!!？」ってね。

『愛知の私立高校ガイドブック』もあるよ～

知ってるドラゴンがでてくる…かも？

「ドラゴンの教科書 神話と伝説と物語」

ダグラス・ナイルズ／著 原書房 2019年 388/1 イー・ブックス



あらがえないものの象徴。ラスボス。(一部小説によると肉は意外とおいしいらしい！？) 今やファンタジー小説や映画、ゲームを盛り上げる存在として欠かせない「ドラゴン」！

その伝説はなぜ生まれたのか、なぜあの姿なのか。(恐竜好き的にはかっこよくてすきだ！) 世界各地の神話や伝説をはじめ、「指輪物語」など、物語の世界に登場するドラゴンも紹介している。

予告：次号の特集は「あったかーい」です。お楽しみに♪

怖いのは、正体を知らないからだ。

「10代のための疲れた心がラクになる本」

長沼睦雄／著 誠文堂新光社 2019年 141.94/1 17歳+



生まれつき、刺激や感情に人一倍「敏感な人」が約5人に1人いるらしい。なんだ、私だけじゃないのか。そう思うだけで少し楽になった。とはいえ、つらいものはつらい。人が話しているのを見て「私の悪口言ってるのかな…。」とか、多かれ少なかれ、誰でも“生きづらさ”みたいなものは抱えているのだろう。感情の正体を知り、必要な行動をすることで、少しでも生きやすくなればいいなと思う。

立ち止まっている暇はない。

「ウチら棺桶まで永遠のランウェイ」

kemio／著 KADOKAWA 2019年 767.8/7 一般



これまでの経験を通して生まれた kemio さんの価値観が、分かりやすい文体で書かれていてめちゃくちゃ共感できる。

好き！これがやりたい！と思えることに突き進む力強さと、状況を俯瞰（ふかん）する冷静さを兼ね備えている印象を受けた。マイナス磁場は怖いからな…。楽しい！嬉しい！を積極的に共有していきたいね。

“「黒は かんペきなよ！」” そこもっと詳しく！！

「ココとリトル・ブラック・ドレス」

アンネマリー・ファン・ハーリングエン／作 文化学園文化出版局 2016年 E/11 17歳+



ファッションブランド『CHANEL』に対する私の印象は、「シンプルなデザインの高級服」。その“シンプルなデザイン”というのが、当時どれほど大きな個性だったのか、これを読んでではじめて知りました。その最たるものが、リトル・ブラック・ドレスなのです。

絵本なので情報量は多くないですが、ココ・シャネルを好きになる入口にぴったりの一冊でした。

お母さんのいいなりじゃない自分に…！

「君だけのシネマ」

高田由紀子/作 PHP 研究所 2018 年 913/7 児童



中学 2 年の史織は、父の転勤をきっかけに祖母のさっちゃんのいる佐渡に引っ越してきた。それは、史織のためと
いって色々な事を決めつけ、縛り付けてきた母から逃げるた
め。学校にも行けず笑えなくなっていた史織は、母の言
なりでいることに限界がきていた。佐渡で新しい友だちに出
会い、さっちゃんが新しくはじめたシネマカフェを手伝う
うち、史織は自分らしさを見つけていく。

自分らしく、そのおかげで今がある。

「理系アナ樹太一の生物部な毎日」

樹太一/著 岩波書店 2014 年 460/7 リーラ

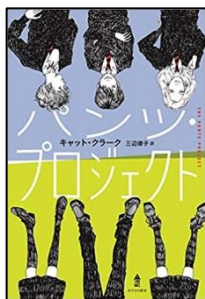


「好きなアナウンサー」ランキング殿堂入り、朝の情報
番組 Z i p の総司会でもおなじみの樹アナ。華やか
なイメージとは違って、小さなころの夢は昆虫博士で、
大学時代はアナゴとアサリ捕りに明け暮れたなどなど、
地味で地道な学生時代に、こういうところで好感度があ
がるんだろうなあと変なところで感心してしまいました。で
もデートを断って昆虫採集ってどうなの？！

多様性の時代、もっと自由に生きてみよう。

「パンツ・プロジェクト」

キャット・クラーク/著 あすなろ書房 2017 年 933/7 リーラ



中学入学初日の朝、リヴは最悪な気分だった。制服のス
カートが嫌で嫌でたまらないのだ。最初は我慢してスカ
ートで通っていたけどもう限界！女子はスカート、男子はズボ
ンなんていつの時代の話なの？そう思ったリヴは制服の自由
を訴える「パンツ・プロジェクト」をたちあげて、校長先生
に直談判することに。そこまでスカートを嫌がるリヴには、
誰にも言えない秘密があって…。

中央図書館では、その他のオススメ本も展示しているので見に来てね☆